

第430回生命科学セミナーのお知らせ

下記の通り生命科学セミナー(統合生命科学研究科セミナー)が開催されますので、教員・院生・学生を問わず、多数ご参加下さい。

記

日時: 2024年1月25日(木) 16:30~17:30

場所: 広島大学 総合科学部 J306教室

演題: 家禽における視床下部分泌性小タンパク質 NPGL 及び NPGM の生理機能に関する研究

演者: 加藤 正暉 氏

(広島大学・大学院統合生命科学研究科 生命環境総合科学プログラム 博士課程後期)

《 講演要旨 》

Neurosecretory protein GL (NPGL) 及び neurosecretory protein GM (NPGM) は、鳥類の視床下部より同定された遺伝子から翻訳される小タンパク質であり、エネルギー代謝に関わる脳因子であると推測されている。しかし、家禽での詳細な生理機能は明らかになっていない。そこで、本研究では家禽(ニワトリ・ヒナ、ウズラ)を用いて生理機能の解明を試みた。

ニワトリ・ヒナを用いた遺伝子発現解析や脳室内慢性投与実験によって、NPGL 及び NPGM は環境の変化に対して応答性を示す脳因子であり、摂食行動や脂肪の増加を促す作用を持つことが示された。

また、ウズラを用いた解析の結果、NPGL 及び NPGM は摂食行動や脂肪の増加を促す作用を持つことが示された一方で、異なる神経細胞に発現していることを明らかにした。加えて、鳥類の「渡り行動」において、NPGL が重要な役割を担っている可能性を見出した。

以上の解析から、NPGL 及び NPGM はエネルギー代謝を制御する脳因子であることを家禽で初めて明らかにすることができた。

責任者 統合生命科学研究科・浮穴和義(内線 6571)

(注) 本セミナーは、プログラム共同セミナーの対象です。

本セミナーは、博士論文発表会(公聴会)を兼ねています。